

Eスクエア(e²)プロジェクト

子ども用 ホームページ ガイドブック

教師用マニュアル



情報処理振興事業協会

財団法人コンピュータ教育開発センター

<http://www.edu.ipa.go.jp/E-square/>

目 次

ようこそ！ 子どものひろばへ	1
「子どものひろば」の世界へ	1
先生自身が参加したい／先生同士相談しあいたい	3
「作戦ゾーン」	3
「チャットもできるよ！」	4
「先生のためのリンク」	4
子どもたちを自由に参加させたい	5
「であいゾーン」	5
授業や共同学習に役立てたい	7
「まなびゾーン」	7
教師として	9



ようこそ！ 子どものひろばへ

Welcome to E-square!!

これは、これから「子どものひろば」に参加する先生方のためのガイドです。ガイドといっても具体的な活動実践案などには触れておりません。ここではごくごく簡単に先生方と子どもたちが「子どもひろば」に参加するためのヒントになるような事のみにとどめます。具体的な活動については、実際に「子どものひろば」を子どもたちと一緒に体験していく中で、他の参加校の先生方と共に相談しながら進めていっていただきたいのです。このガイドが先生方と子どもたちの『子どものひろばへのはじめの一步』に少しでもお役に立つことができれば幸いです。

「子どものひろば」の世界へ

「子どものひろば」のアイコンをクリックすると、図1のようなログイン画面があらわれます。ここに登録の際発行されたユーザーIDとパスワードを入力します。先生方のユーザーID・パスワードと、子どもたち用のユーザーID・パスワードは異なりますので、子どもたちと一緒に子どものひろばにログインする際には気をつけて下さい。

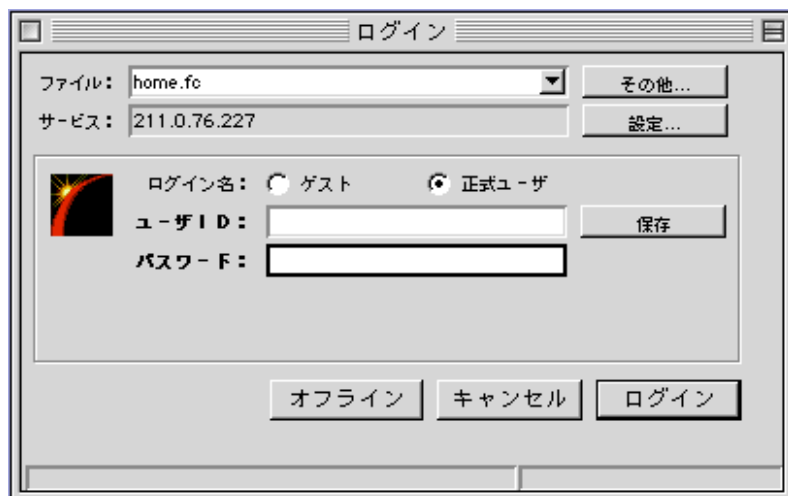


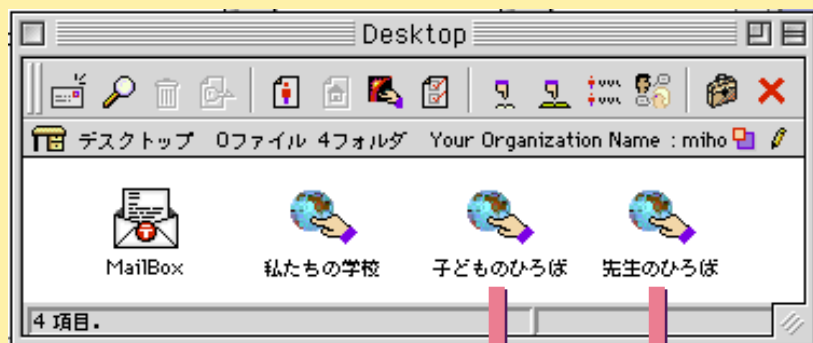
図1：ログイン画面

ユーザーIDとパスワードを入力後、ログインボタンを押すと図2のようなデスクトップ画面があらわれます。「Mail Box」「私たちの学校」「子どものひろば」「先生のひろば」の4つの部屋があります。Mail Boxにはたぶん最初の段階では何も入っていないと思います。ここはしばらくしてから見ることにして、まずは「先生自身が参加したい／先生同士相談しあいたい」「子どもたちを自由に参加させたい」「授業や共同学習に役立てたい」の3段階にわけて「はじめの一步」をどうしたらいいかのヒントに触れていきましょう。子どもたちといっしょで、先生方も「まずはやってみる！」という姿勢が大切です。



図2：デスクトップ画面

図3：会議室のしくみ



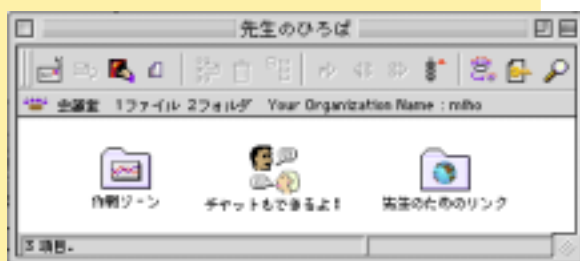
「こどものひろば」(図9)



1

先生自身が参加したい/
先生同士相談しあいたい

「先生のひろば」(図6)



2

子どもたちを自由に参加させたい

「であいゾーン」(図10)



3

授業や共同学習に役立てたい

「まなびゾーン」(図11)



「先生のひろば」(図4)は子どもたちには見ることはできません。ここは先生方のために用意された部屋です。まだ「作戦ゾーン」「チャットもできるよ!」「先生のためのリンク」の3つの部屋しかありませんが、取りあえず各部屋をクリックしてのぞいてみましょう。



図4：先生のひろば

「作戦ゾーン」

ここは、先生同士が作戦をたてる部屋です。プロジェクトの進め方や、子どもたちのひろばで起っている事柄についての話し合い、問題解決方法の相談などなど、「子どものひろば」で円滑にネットワーク活動を進めるために、参加する先生やこのプロジェクトに関わる人々が知恵を出し合っています。既に参加している学校の先生方からのメールでいっぱいだと思いますが(図5)、最近の発言をチェックしておく、今問題になっていることやこれから始まるうとしていることの様子を掴むことができます。また、興味を引かれるタイトルだけ追って読んでみるのもいいでしょう。

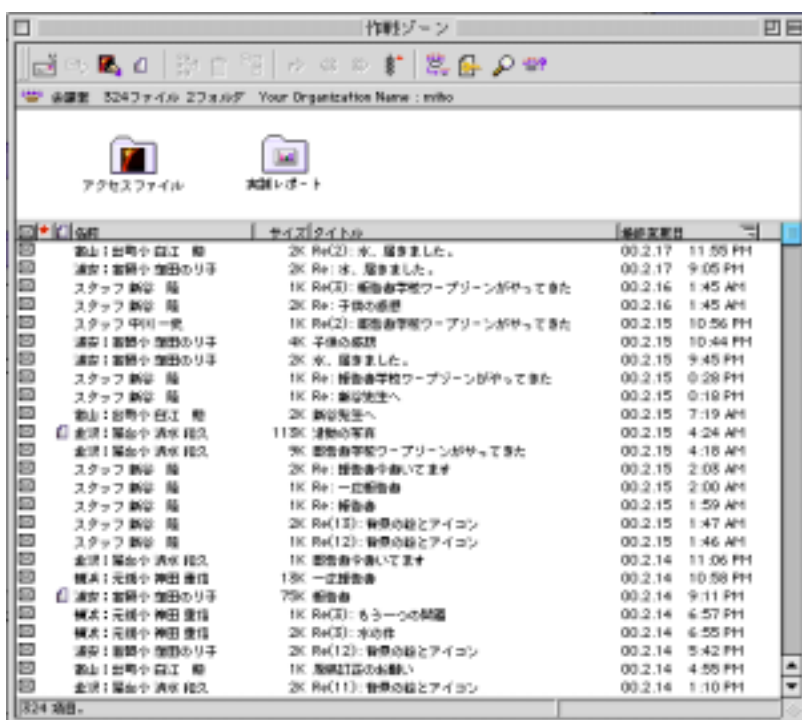


図5：作戦ゾーンに寄せられる
たくさんのメール

子どもたちは、はじめてメールを書いたときには自分の書いた発言がほんとに他の人に読まれて返事がくるのか不安になります。不安を持ちながら、次に見たときにたくさんの人からの反応が返ってきていると、本当に喜びます。そして、ネットワークの向こうには人がいるということに気づき、ネットワークをもっと使ってみたいと感じるのです。

先生方もいっしょですね。一度の発言ですべてを伝えようとするよりも、他の先生方とのやりとりをしながら、少しずつ書いていった方がネットワークらしさを体験できるかもしれません。

先生のひろばも、今後参加校が増えるにしたがっていろいろは部屋が設けられると思いますが、今はこの作戦ゾーンだけが唯一参加校の先生方同士共通に見ることができる部屋です。これから実践を進める上で困ったこと、不安に思っていることなどがあったら、小さいことから・・・などと引っ込めたりせず、何でもこの部屋で相談してください。

「チャットもできるよ！」

ここは先生方同士が気軽にチャットできるように試験的に作られた部屋です。(図6)「チャットもできるよ！」のアイコンをクリックすると図7のようなチャット画面があらわれます。チャットについての詳しい説明はいりませんね？まずはトライ！です。

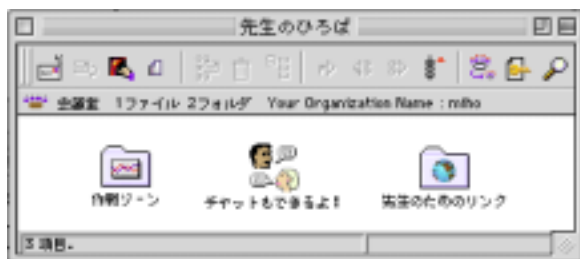


図6 & 図7：チャット画面 まずはトライ！

「先生のためのリンク」

クリックするだけで、実践に役立つ便利なサイトが開くようになっています。現在は先生のひろばの方に図8のような4つのサイトにしかリンクが張られていませんが、これから実践を進めていく中で、子どものひろばの方に同様のリンク集をつくることも可能ですし、リンク先もどんどん増えていくでしょう。



図8：先生のためのリンク

まず児童・生徒用のガイドをお読みになってください。これを手がかりに、子どもたちをどう参加させていくか、それぞれの学校で作戦をたててください。ここでは、先生方へのヒントを紹介します。

デスクトップ画面(図2)から「子どものひろば」のアイコンをダブルクリックすると、図9の画面があらわれます。ここは「であいゾーン」と「まなびゾーン」の2つのコーナーに分かれています。



図9：子どものひろば

であいゾーン

「であいゾーン」(図10)は、子どものひろばに参加する子どもたちが自由に参加できるゾーンです。

キーボードの打ち方を習い始めたばかりの子ども、メールの出し方を勉強したい子ども、友だちを作りたいと願っている子ども・・・そんな子どもたちには、この「であいゾーン」から始めさせてあげるとよいでしょう。

この中にはたくさんの部屋があります。興味のあるところからどんどん見ていってください。とは言うものの、どの部屋を開いても未読の印(赤い印)がいっぱいで、こんなにとても読み切れないと感じるかもしれません。しかし、実際に中を開いて読んでみると、案外取っ掛かりやすいことがテーマになっていたりします。各部屋の一番下に、その部屋で行われていることの簡単な説明が書かれたメールが出ていますが、ここでも簡単に説明しますので、子どもたちに紹介してあげてください。



図10：であいゾーン

自己紹介

タイトルに子どもたちの名前をいれて、自己紹介をさせてあげてください。

学校紹介

「子どものひろば」に参加している学校が、それぞれの学校のことを他の学校の友だちに紹介する部屋です。

ゲームとアニメ

子どもたちが好きなゲームとアニメに関係あることだったら、何でも話していい部屋です。

つくってコーナー

こんな部屋を作って欲しい！こんなことをみんなと話し合いたい！という希望は、この部屋に送り、話し合いによって、新しい会議室に変わっていくこともあります。

みんな聞いて！

子どもたちが、こんなこと聞いて。ということがあったらここに書き込ませてあげてください。子どもたちの書いた絵や写真を送るのもいいですね。

上に紹介した会議室で、心にとまった発言に出会ったら、子どもたちに紹介してみるのも手です。それをきっかけに子どもたちがさらに自分たちで発言を読んでいったり、返事を書いてみたいと相談を持ちかけてきたりすることと思います。

「まなびゾーン」

「まなびゾーン」(図11)では、コラボレーション(共同学習)を中心としたネットワークの体験の場を提供しています。「であいゾーン」に参加して、もっと相手のことが知りたい、もっと同じテーマと一緒に話し合ってみたい、という希望が出てきたら、こちらのゾーンに移って、参加校同士の共同学習に役立てていってください。

「まなびゾーン」の会議室をどんどん開いて、どんなコラボレーションが展開されているか読んでみてください。それと平行して、「先生のひろば」の「作戦ゾーン」でも共同学習を進める上での先生方同士の作戦会議も展開されていますので、チェックしておきましょう。分からないことや、約束ごとについて知りたい場合も遠慮なく、「作戦ゾーン」になげかけてください。

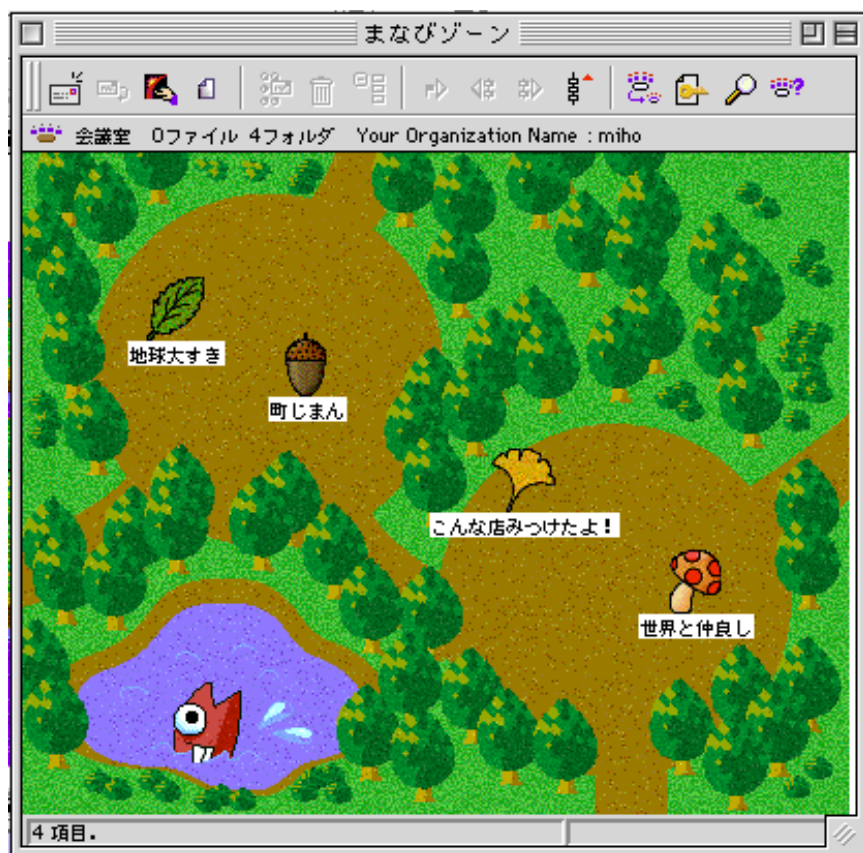


図11：まなびゾーン

地球大すき

「総合的な学習」の時間の環境分野の学習の一環として、地球環境のさまざまなテーマについて、参加校同士で情報交換や話し合いをします。

町じまん

自分の地域の情報を他の参加校と紹介し合い交流を深めます。自己紹介などを通して情報活用能力を高め、地域理解の学習にも発展させていきます。

こんな店 みつけたよ！

「総合的な学習」の時間の実践として、自分が気に入った様々なお店の情報を参加校で交換しながら、課題を発見し解決していく学習へと発展させます。

世界と仲良し

国際理解学習の一環として、海外の生活・文化や自分の生活との比較について学習したことを参加校同士で話し合います。

現在あるこれらのコーナーは「まなびゾーン」を活用した学習の可能性のほんの一例です。学校の実態やカリキュラムに応じて、また、参加校同士の話し合いにより、新設や変更が柔軟にできるように運営されています。

私たちの多くは、子どもの時代にコンピュータやネットワークの教育を受けたことがあります。そのため「教師」としてこんなことをどのように子どもたちに教えていっているのか、なかなか頭に浮かんでこないのが実情です。得にネットワークが身近なものになり、教育という現場に取り入れられるようになってきたのは、ここ最近のことなのでなおさらです。実践集をひもといても、話を聞いても、なかなかイメージがわかず、子どもたちにわかりやすく説明することも難しかったりします。そこで、3つのヒントを・・・

ヒント1 まず教師が体験してみることが大切

子どもたちがネットワークを体験し、そこで学んでいこうとすることを、教師が一足先に体験してみるといいと思います。わかりにくい点、難しい点はどこなのか。そして、ネットワークの楽しさを教師も体験することで、どう子どもたちを指導していけばいいのかが、だんだん見えてくると思います。

キーワードは「教師も楽しむ」です。

ヒント2 会議室で自分の学校の子どもたちがどんな発信しているかは、まめに読む

ネットワークは1つの社会です。現実の社会で起ることは、ネットワーク上でも起こり得ます。しかし、ネットワークの先に生身の人がいるということをしっかり押さえておかないと、相手を傷つけたり怒らせてしまう発言をしてしまうことがあります。先生同士の作戦ゾーンでも起こり得ることで、コンピュータを使っていることで、ゲームに似た架空の世界が広がっていると受け取りやすい子どもたちにとってはなおさらなことです。しかし、最初からこんなメールは出さな、ネチケットとはどういうことか、と子どもたちに説明してもなかなかわからないでしょう。要は子どもたちが日々どんな発言をしているのか教師がまめにチェックし、こうした問題に、タイミングよく対処することが重要なのです。問題になりそうな発言に出会ったときにも頭ごなしに注意するのではなく、その発言の背景に子どもたちのどんな思いがあったのかを話し合っていくことが大切なのです。

それぞれの学校の子どもたちがどう育っていくかは、問題に直面したとき、それをどう乗り越えるかにかかってくるでしょう。問題を発券した場合は何も恥じたりすることはないのです。それはたぶん多くの学校が大なり小なり経験してきたことです。先生のひろばの「作戦ゾーン」になげかければ、多くの学校の先生方から励ましやアドバイスが得られることでしょう。

子どもたちが活発に発言するようになると、ひとりの教師だけではすべての発言をチェックすることがなかなか難しくなってきます。そうした段階になるまでに、一緒に子どもたちの活動を見守っていく教師仲間をつくっていく必要があると思います。また、子どもたちの中からもリーダー的な存在がでてくるかもしれません。

キーワードは「ひっきり目をかける」です。

ヒント3

教師としてどう発言していくか、どう支えていくか

途中から話の輪に加わることはとても勇気がいります。しかし、「子どものひろば」は、いつどんなタイミングで話に加わっても問題ありません。むしろ、新しい仲間をよこんで迎えてくれることと思います。学校によって毎日利用できるネットワーク環境にある所や、そうでない学校もあるでしょう。それぞれの学校の実情に応じて、気負わずに参加してみてください。

さて、そのとき教師はどうかかわるべきなのでしょう？ 口出ししすぎではいけない、のはもっともなのですが、かといって、決して、何も見ないでもいい、

何もしないでもいい、というものでもありません。相手の顔が見えない、相手の反応にタイムラグが生じるネットワークだからこそ、裏で参加校の先生方との密なやりとりを通して、共通理解をはかっていく必要があります。メールだけでなく、時に電話やファクシミリをつかったり、時に実際にあって膝をつきあわせて話しあったりが必要になるかもしれません。

キーワードは「裏でしっかりサポートする」
「教師同士がしっかりコミュニケーションする」です。



以上、はじめの一步として先生方に役立ちそうなことを説明してきましたが、これだけでは足りないことが1つあります。ネットワークは、人と人とを結ぶもの。直接会うという機会があつてこそ、そのつながりは深まります。そんな機会があつた場合は、ぜひ積極的にご参加ください。

Eスクエア(e2)プロジェクト
子ども用ホームページガイドブック
(教師用マニュアル)

不許複製 禁無断転載

2000年2月21日 第1版発行

企画・構成

「Eスクエア・プロジェクト」
子供用ホームページ・ワーキンググループ

編集協力

メディアキッズ

編集・制作

(株)学習研究社デジタルコンテンツ編集出版室

図版・レイアウト

甲谷 勝・小林峰子

発行

情報処理振興事業協会

<http://www.edu.ipa.go.jp/>

財団法人コンピュータ教育開発センター

<http://www.edu.ipa.go.jp/E-square/>